

「国勢調査のはじまり」

平成 22 年 8 月 18 日 ~ 10 月 8 日

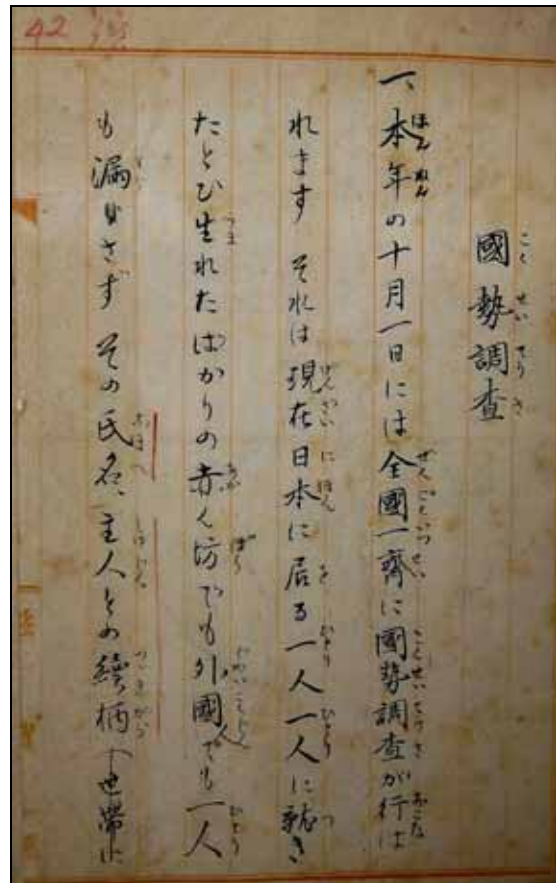


「滋賀県臨時国勢調査部設置規程」 (滋賀県訓令第 23 号)

大正 8 年 (1919 年)

全国的な「現住人口」調査のために明治 35 年 (1902 年) に「国勢調査ニ関スル法律」が発令されたが、日露戦争と第 1 次世界大戦の影響で第 1 回の調査は大正 9 年 (1920 年) によようやく実施された。

県でも大正 7 年に「国勢調査施行令」が出されると臨時国勢調査部を設置して準備を始めた。

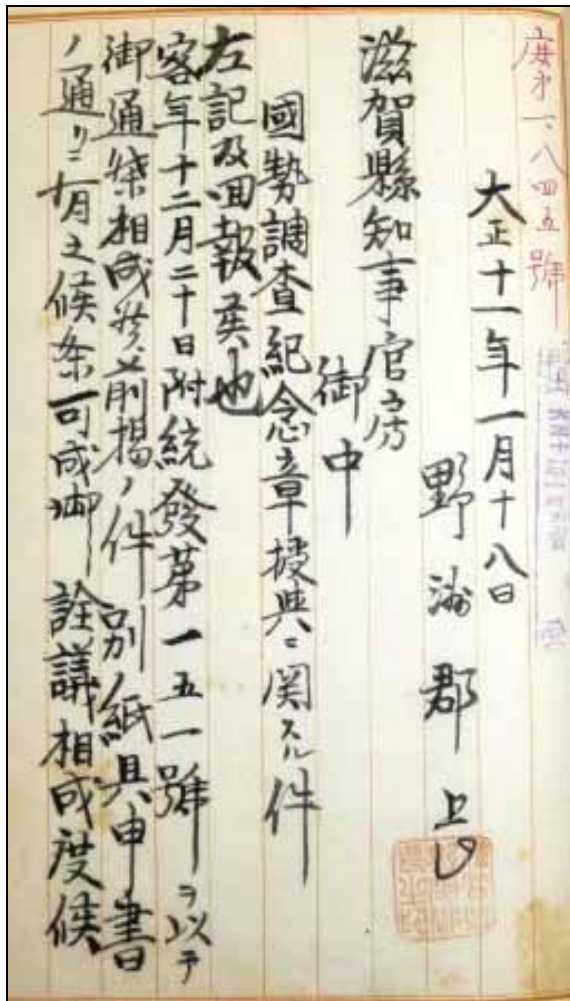


「調査の手引き」

大正 9 年 (1920 年)

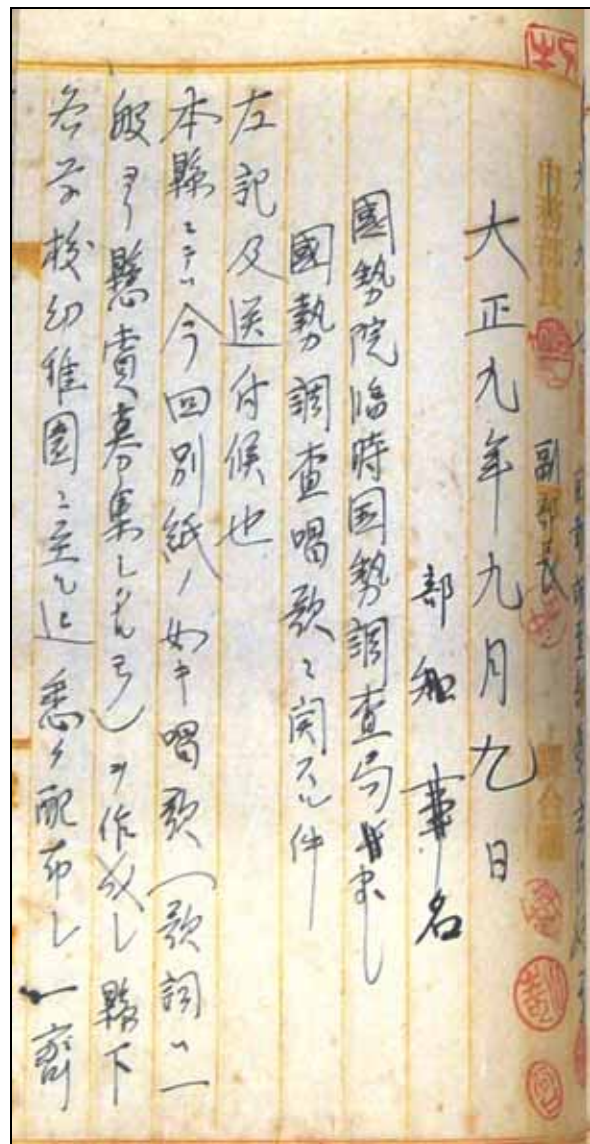
国勢調査について説明された原稿。欄外には「14万5千枚」とほぼ県の世帯数に相当する数字が書かれており、全世帯へ配布したと考えられる。

漢字にふりがなをふった平易なことで書かれ、「外国人に負けぬ立派な成績を挙げる様にしたいものであります」と締めくくられている。



「国勢調査紀念章授与に関する件」
大正 11 年（1922 年）

申告書を回収する調査員は、推薦によって選ばれた地方の名士たちだった。国から支給された徽章をつけて、羽織袴などで各家を回った。調査を記念する記念章は、調査員だけでなく、功勞のあった関係者にも配布された。



「国勢調査唱歌に関する件」
大正 9 年（1920 年）

県は 1 等 50 円、2 等 20 円、3 等 10 円の懸賞金をつけて歌詞を募集した。

入賞作は県下の小学校、幼稚園に配布され、神崎郡では小学生がその歌を歌いながら旗行列を行ったという。

当時、東京の小学校教員の初任給が 40 ~ 55 円程度。

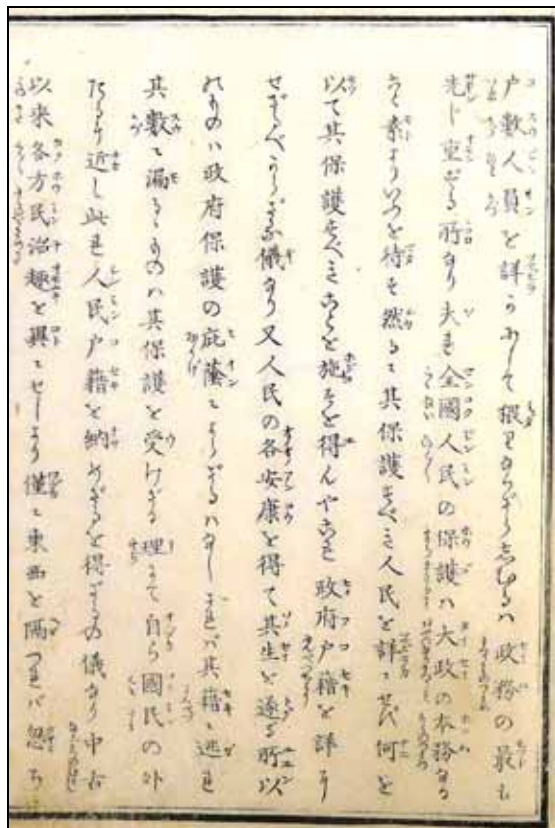
全 管	高島郡																現住戸数	大正八年末	國勢調査	世帯数	現住戸数	増減								
	永原村	塩浜村	片岡村	丹生村	余吾村	伊集貝村	海津村	劍照村	西庄村	百瀬村	川上村	今津町	三谷村	朽木村	鷹瀬村	安曇村							高島村	大溝町	水尾村	香栞村	赤産村	新儀村	饗庭村	
一五五三六	七〇五	五〇八	五八〇	五八五	四九八	三三七	三九二	四一五	五〇五	五九〇	九二〇	三三四	八四四	五〇七	七〇一	三三八	五四一	四九五	五七八	八〇七	八三〇	八三〇	八三〇	八三〇	一〇、四五二	一、〇六	六三五	一、〇六	八、〇六八	五

「大正8年末現住戸口と国勢調査に於ける世帯人口との比較」(部分)

大正9年(1920年)

国勢調査によってそれまでの推計と現実の人口との差異が明らかになった。戸籍を廃する届出などに多くの漏れがあったためと考えられる。

この表では8,068世帯の増加となっている。人口は49,756人の減少となった。



おせいだされそうろう
戸籍法被仰出候件

明治4年(1871年)

明治4年(1871年)戸籍法(太政官第170号)が発令された。

それにもとづき、近代日本で初めての人口調査が行われ、いわゆる「壬申戸籍」が作られる。

これ以降、戸籍をもとに生死や寄留数を加減し、推計人口が算出されていく。

滋賀縣統計書目次

土地

第一 地勢
第二 本縣管轄地ノ沿革
第三 本縣ノ位置
第四 四郡ノ面積及廣表
第五 山嶺ノ景狀
第六 原野ノ景狀
第七 河川ノ源流
第八 琵琶湖ノ周圍及面積
第九 琵琶湖ノ位置及周圍面積
第十 重要ノ隘路
第十一 行政區畫
第十二 裁判區畫
第十三 警察區畫
第十四 元標ニテ各區ノ里程

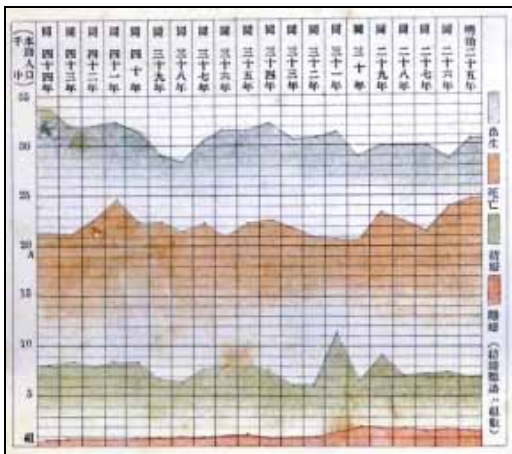
一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五

「明治 16 年滋賀県統計書」
明治 18 年（1885 年）発行

庶務課統計部によって出された滋賀県初めての統計書。
24 部類、240 の項目の統計表が掲載されている。これ以降、現在まで刊行されている。



「滋賀県統計図表」
大正元年（1912 年）

統計表原稿調査凡例

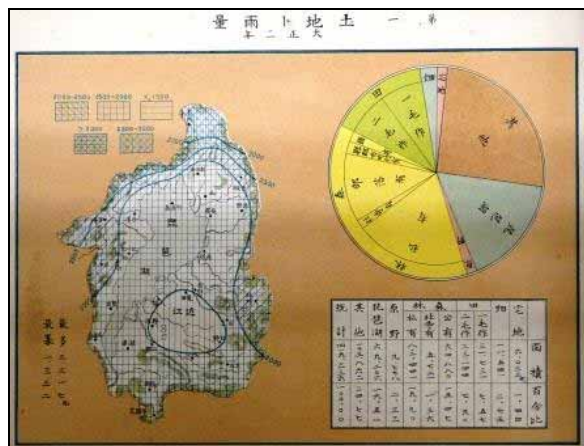
第一號 都邑

式ノ如ク三等二分千人ニ滿タスシ
テ市立千アルノ地ハ其村名戸口ノ數
ト市立ノ日數ヲ舉ク_{月ニ從} 舊來石代相
庭上申ノ地ハ地名上ニ_{度ノ類} 標ヲ以テ之
レヲ表別ス

第二號 神社

「明治 9 年統計表編製資料調査方及統計表原稿調査凡例」明治 9 年（1876 年）

ごんれい
県権令籠手田安定より出された明治 9 年の統計表作製の指示。ひな形を示して村名から災害まで 26 項目にわたって、各区戸長へ取り調べるよう布達している。



「滋賀県統計図表」
大正 4 年（1915 年）

大正期には統計書とは別に色つきの統計図表が作られている。わかりやすいようグラフや表を用いて統計の数値が示されている。



調査の告知ちらしやポスターなど

○よしこの
(例にでも
唄へます)

△國の爲とて明かした秘密
△國のしらべが仲立となり
△國勢調査に漏てはならぬ
△家庭平和の隣りはこれよ
△女世帯の奥から出して
△牛逐ふ童も貝拾らふ子も
△今度の調べはお腹赤子も
△十月一日わすれぬやうと
△九尺二間も肩身がひろく
△調査のお蔭と互ひの奇遇

他人にもらさぬ係り員
今日から日蔭で此身
人と生れて来たからは
妻 妾 同棲 子 澤山
まこと明かした男下駄
網の目漏さぬ國の基礎
入れてほしいと新世帯
旅のカバンに身分書
國に名の出た世帯主
名乗り合ふてる出生地

国勢調査への協力を呼びかけるちらし
大正9年(1920年)

統計学の発展と社会調査についての資料展示

